

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年期障害作業療法治療学		必修	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥	C308	t.enokida	曜日 10:30~12:30		
授業の目的・概要	老年期障害の作業療法介入を実践するうえで必要な基本的知識を学び、具体的治療介入のポイントを理解し、発想力を養うことを目的とする。なお、授業は遠隔で実施し動画も活用して理解を促し、その後、メディアを通じたフィードバック等により理解を深める。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	老年期および認知症の治療に必要な基本的知識をもとに、具体的な治療介入を展開できる技術を習得する基礎を学ぶ。これまで学んだ老年期および認知症の知識が土台になるため、教科書や配布されたプリント等を丁寧に読み込むことをお勧めする。				
教科書	①高齢期作業療法学 第3版 著：松房利憲、新井健五 出版社：医学書院 ②高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版 著：守口恭子 出版社：三輪書店 必要に応じてプリントの配布、映像資料を用いる。「2冊指定」				
参考書	認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第2版 著：佐土根朗 他 編：山口晴保 出版社：協同医書出版社				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	老年期および認知症の治療に必要な基本的知識を理解し、説明できる。			HSU(3)、OT(2)(3)	
②	老年期のさまざまな事例から治療介入のポイントを理解し、応用につなげられる。			HSU(3)、OT(1)(2)(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション「高齢者の生活の見方」について学ぶ。教科書①P84~P87	同時双方向型授業	事前学習として教科書の該当箇所を読む。事後学習は教科書、資料等を深める。	1	
2	「高齢期作業療法の実践課程」について学ぶ。教科書①P87~P93	同時双方向型授業	事前学習として教科書の該当箇所を読む。事後学習は教科書、資料等を深める。	1	
3	「認知症高齢者の作業療法」について学ぶ。教科書①P130~P145	同時双方向型授業	事前学習として教科書の該当箇所を読む。事後学習は教科書、資料等を深める。	1	
4	「認知症に対する作業療法士の関わりポイント・作業療法の展開における留意点」について学ぶ。教科書②P15~P29	同時双方向型授業	事前学習として教科書の該当箇所を読む。事後学習は教科書、資料等を深める。	1	
5	「認知症の中核症状に対する作業療法」について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書②P136~P145	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1	
6	「認知症のBPSDに対する作業療法」について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書②P145~P151	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1	
7	「認知症のBADL・IADLに対する作業療法」について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書②P160~P174	同時双方向型授業	事前学習として教科書の該当箇所を読む。事後学習は教科書、資料等を深める。	1	
8	「保たれている機能・余暇活動・対人関係・環境調整」について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書②P152~P160、P174~P185	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1	
9	「軽度認知症」に対する作業療法について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書①P177~P185	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1	
10	「中等度認知症」に対する作業療法について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書①P186~P196	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1	
11	「重度認知症」に対する作業療法について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書①P197~P207	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1	
12	「終末期」の作業療法について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書①P208~P214	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1	
13	「AD・VDに対する作業療法」について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書②P58~P68	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1	
14	「DLB・FTDに対する作業療法」について学ぶ。(課題発表による討議) 教科書②P68~P76	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を読むとともに、発表担当課題を実施しておくこと。	1	

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科/旧カリキュラム】

15	高齢期作業療法についてまとめる。	同時双方向型授業	事前学習としてこれまで学んだ資料等を読む。事後学習は教科書、資料等を深める。	1
試	定期試験			

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		90	0	10	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	2	0	0	42
	思考・推論・創造する力	40	0	2	0	0	42
	協調性・リーダーシップ	0	0	1	0	0	1
	発表・表現伝達する力	0	0	2	0	0	2
	コミュニケーション力	0	0	1	0	0	1
	取組みの姿勢・意欲	0	0	1	0	0	1
	問題を発見・解決する力	10	0	1	0	0	11

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価する。試験は、授業で学んだ教科書、および発表内容等に基づく問題を出題し、理解度を問う。	全体に向けた講評を授業時または Teams 上で行い、必要に応じて対面またはリモート等で個別に振り返りを行う。
	②	✓		
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	第5回～14回は担当になった課題をグループでまとめパワーポイントで発表する。 成果発表の成績基準は以下の通り。 ・キーワードと専門知識を正しく用いている (3点) ・ポイントを整理した構成で理解しやすく解説できる (3点) ・解説を深めるために適宜文献を引用できている (2点) ・発表までに担当教員に質問し内容を深められる (2点)	授業での討議を通して適宜フィードバックを行う。
	②	✓		
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	なし
教員の実務経験	担当する教員は作業療法士として10年以上の臨床経験を有する。
実践的授業の内容	テキストと併せて臨床での評価、治療を通して得た知見に基づき講義を展開する。
そ の 他	Teamsを使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨する。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。